

慢性便秘症と薬

慢性便秘症は、便秘が慢性的に続くことによって日常生活に支障をきたし、検査や食事、生活指導または薬物治療が必要な状態である。

慢性便秘症の背景因子には、女性、身体活動の低下、腹部手術歴、基礎疾患（糖尿病、甲状腺機能低下症、パーキンソン病、精神疾患など）、加齢、薬剤などがあります。

高頻度に便秘を引き起こす薬剤

- ◎抗コリン薬
- ◎抗うつ薬、抗不安薬、抗精神病薬
- ◎抗パーキンソン病薬
- ◎オピオイド（麻薬性・非麻薬性）など

慢性便秘症の合併症には、直腸潰瘍や糞便性腸閉塞などがあります。また、冠動脈心疾患、脳卒中など他疾患に影響を及ぼすことを示唆する報告もあります。

長期的予後への影響も懸念されるため、放置せず、医師に相談しましょう。

《慢性便秘症の治療薬》

①浸透圧性下剤

- 酸化マグネシウム（マグミット®錠）
- 高分子化合物（モビコール®配合内用液）など

浸透圧勾配を利用し、腸内に水分を保持することで、便を軟化させ、排便回数を増加させる。

★酸化マグネシウム（マグミット®）の副作用 「高マグネシウム血症」

血液中のマグネシウムが増えすぎってしまった病態で、初期症状として、悪心、嘔吐、徐脈、筋力低下、傾眠などがある。

マグネシウムを服用中で腎機能が低下している方、高齢者、長期服用している方は特に注意が必要である。

②刺激性下剤

- センノシド®錠、アローゼン®顆粒、ピコスルファートナトリウム®内用液など

大腸に作用して蠕動運動を促進し、腸管からの水分の吸収を抑制し排便させる。

★長期連用は耐性や習慣性が生じる可能性があるため、できるだけ頓用または短期間での使用とする。

③上皮機能変容薬

- アミティーザ®カプセルなど

小腸粘膜上皮細胞にあるクロライドチャンネルを活性化し、消化管にCl⁻イオンを分泌させることで水分の分泌を促進し緩下作用を示す。

★妊婦の服用は禁忌

④胆汁酸トランスポーター阻害剤

- ゲーフィス®錠

回腸末端部の胆汁酸トランスポーターを阻害して胆汁酸の再吸収を一部抑制することで、腸管内への胆汁酸量を増加させることで、水分分泌、蠕動運動を促す。

★食前服用

⑤オピオイド誘発性便秘治療薬

- スインプロイク®錠

オピオイドと呼ばれる麻薬性鎮痛剤（オキシコドン等）や非麻薬性鎮痛剤（トラマドール等）による便秘に対し、消化管のオピオイド受容体を阻害し、便秘の発現を抑える効果がある。